

日本株ロング・ショート・ストラテジー・ファンド 愛称:「とこしえ」

追加型投信/国内/株式/特殊型(ロング・ショート型)

作成基準日:2022年3月31日

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファイブスター投信投資顧問株式会社

運用実績等

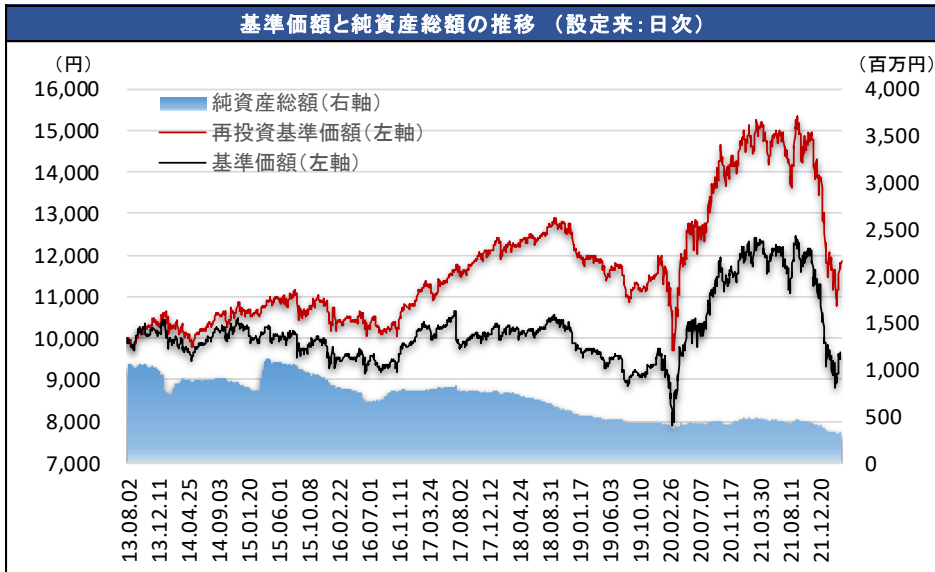
ファンド概要

設定日	2013年08月01日
信託期間	2023年10月30日
決算日	毎年1月,4月,7月,10月の各28日(年4回)
信託報酬率	年 1.155% (税抜 年 1.05%)
基準価額	9,663円
純資産総額	336,101,076円

※投資対象とする外国投資信託証券にも別途信託報酬等がかかり、信託報酬の実質的な負担は年2.629%程度となります。

※決算日が休業日の場合は翌営業日となります。

基準価額と純資産総額の推移(設定来:日次)



※基準価額は、実質的な信託報酬(年率概算(税込)2.629%)控除後の値です。

※再投資基準価額の推移は、税引前分配金を全額再投資したものととして算出しているため、実際の受益者利回りとは異なります。

期間収益率

過去1ヶ月	+4.84%
過去3ヶ月	-14.51%
過去6ヶ月	-20.35%
過去1年	-21.16%
過去3年	-0.46%
設定来	+18.73%

※税引前分配金を全額再投資したものととして計算しています。

資産構成

ケイマン籍外国投資信託(円建て) 「とこしえ日本株ロング・ショート戦略ファンド」	97.52%
ファイブスター・マネープール・マザーファンド 2	0.65%
現金等	1.83%
合計	100.00%

※市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行えない場合があります。

※ファイブスター・マネープール・マザーファンド2の運用基本方針は、安定した収益の確保をめざして運用を行います。また、投資対象は、国内発行体の公社債、転換社債、ユーロ円債、資産担保証券ならびにCD、CP、コールローン等の国内短期金融資産を主要投資対象とします。

※追加設定の計上タイミングと投資対象の購入処理等のタイミングのずれ等により、比率が100%をこえる場合があります。

分配実績(1万口当たり、税引前)

設定来合計	2,100円
第32期(2021年07月28日)	0円
第33期(2021年10月28日)	0円
第34期(2022年01月28日)	0円

※直近3期分(1万口当たり税引前の金額)

ハイ・ウォーターマーク

次回計算期間の終了日まで	12,039円	※決算日前営業日の公表基準価額が翌期のハイ・ウォーターマークに更新されます。
--------------	---------	--

※決算日に収益分配金が発生した場合には、決算日前営業日の公表基準価額から収益分配金を控除した価額が、翌期のハイ・ウォーターマークとなります。

※信託報酬のほか、実績報酬を設けており、超過収益が発生した場合には収益の5.5%(税抜5%)が各決算日および償還時に支払われます。なお、実績報酬は超過収益に応じて発生するため、実質的な数値を表示することはできません。

※計算期間中にファンドの解約をした場合には、解約価額(基準価額公表から信託財産留保額を控除した額)が既に実績報酬を含んで算出されておりますので、追加で実績報酬が発生することはありません。



あなたに最適な
資産運用を。

日本株ロング・ショート・ストラテジー・ファンド 愛称:「とこしえ」

追加型投信/国内/株式/特殊型(ロング・ショート型)

作成基準日:2022年3月31日

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファイブスター投信投資顧問株式会社

投資対象の投資信託証券の運用概況

ケイマン籍外国投資信託(円建て)「とこしえ日本株ロング・ショート戦略ファンド」

ファンドの特色

- 投資信託証券への投資を通じて、主としてわが国の金融商品取引所に上場する株式の買建て(ロング)と売建て(ショート)を行い、株式市場の変動による影響を軽減しつつ、信託財産の中長期的な成長を目指します。
- 投資銘柄の選定にあたっては、ボトムアップ・アプローチにより投資銘柄を選定します。

エクスポージャー	ロング・ポジション	ショート・ポジション
L/S エクスポージャー	86.75%	-10.55%
グロス・エクスポージャー	97.30%	
ネット・エクスポージャー	76.20%	

流動性	ロング・ポジション	ショート・ポジション
1日	99.60%	100.00%
3日間	99.93%	100.00%
5日間	100.00%	100.00%

※流動性は、25日平均出来高の20%を売買することを前提として、保有するポジションを全て解消した場合にかかる目安を表しています。

保有銘柄数	ロング・ポジション	ショート・ポジション
186 銘柄	178 銘柄	8 銘柄

※保有銘柄数は、組入れの株式と上場投資証券の数を表示しています。

時価総額別	ロング・ポジション	ショート・ポジション
5,000億円超	40.37%	-2.83%
2,000億円～5,000億円	12.03%	-0.86%
500億円～2,000億円	15.91%	-0.23%
200億円～500億円	12.02%	-0.29%
200億円以下	6.42%	0.00%
株価指数先物等	0.00%	-6.34%

銘柄別組入れ上位5銘柄

ロング・ポジション						ショート・ポジション	
No.	銘柄コード	銘柄名	業種等	市場	純資産比	業種等	純資産比
1	1605	INPEX	鉱業	東証1	2.07%	株価指数先物等	-6.34%
2	8306	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	東証1	1.68%	化学	-1.00%
3	6521	オキサイド	電気機器	東証M	1.60%	金属製品	-0.70%
4	3328	BEENOS	小売業	東証1	1.51%	食料品	-0.60%
5	9246	プロジェクトカンパニー	サービス業	東証M	1.50%	鉄鋼	-0.53%

※上記内容は、組入銘柄の紹介を目的として作成しましたが、記載銘柄の推奨を行うものではありません。

※上記内容は、作成基準日における情報を元に作成していますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。

※当ファンドでは銘柄入替を行うことがあるため、現在の銘柄と異なる場合があります。

※業種については、東証33分類をもとに分類しております。



あなたに最適な
資産運用を。

ファイブスター
投信投資顧問

※ 後述の「当資料のご留意点」を必ずご参照下さい。

AB311138-MR220331C

2/10ページ

日本株ロング・ショート・ストラテジー・ファンド 愛称:「とこしえ」

追加型投信/国内/株式/特殊型(ロング・ショート型)

作成基準日:2022年3月31日

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファイブスター投信投資顧問株式会社

マンスリーコメント

市況概況

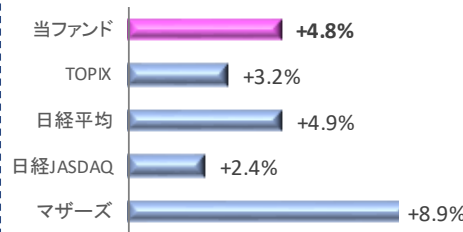
日本株については、日経平均株価+4.9%、TOPIX+3.2%、中小型株については、東証マザーズ指数+8.9%、日経JASDAQ平均+2.4%と、振れ幅が大きな展開となったものの、概ね全面高となりました。前月の月報で、1か月後（3月末）の株価について、前月末の株価水準よりも大幅に安いか、大幅に高い水準にあるように思われ、2月末水準と同水準に落ち着く可能性は小さいと書きましたが、その予想通りの展開になりました。

上旬は、ロシアによるウクライナ侵略戦争の激化と、それに対するNATO（北大西洋条約機構）を中心とする世界各国からのロシアへの経済制裁で、株価は下落基調をたどりました。

その後は、同侵略戦争の停戦期待の高まりで、株価は急速に戻す展開となりました。また、市場が「侵略戦争」と「インフレ」という二大顕在リスクに慣れてきたこと、その慣れの延長線上と思われる「遠くの戦争は買い」の様相の高まりなどにより、株価は先月末水準を超えて月単位で今年初めてのプラス圏での推移となりました。

もともと、1月は米国でのインフレ率上昇と金融引き締め懸念、2月はロシアによるウクライナ侵略戦争の開始と米国でのインフレ懸念という、日本とは直接関係ない要因で日本株は下落しましたが、その要因である「戦争」と「インフレ」がむしろ悪化している中で3月に株価が戻ったことについては、市場の先見性によるのか、市場の先見性が衰えたことによるのか、人により解釈が分かれる展開となりました。

月間騰落率



※上記記載の株価指数は配当込み指数ではありません。

日本株ロング・ショート・ストラテジー・ファンド 愛称:「とこしえ」

追加型投信/国内/株式/特殊型(ロング・ショート型)

作成基準日:2022年3月31日

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファイブスター投信投資顧問株式会社

マンスリーコメント

運用概況

今月の当ファンドの基準価額は、前月末比+4.84%の上昇率（再投資基準価額ベース）となりました。

まず、月中の日本株の動きについては、月初では日経平均株価で25,000円から28,000円というレンジでの振れ幅の激しい展開を予想していたのに対し、3月実績は、安値24,681円、高値28,338円、終値27,821円と、概ね想定通りの推移となりました。

当月の日本株のセクター別パフォーマンスは、騰落率上位が、鉱業、卸売業、サービス業で、金属製品、繊維製品、食料品がワーストパフォーマンスとなりました。ファクター的には、今年初めからの流れと同様に大型株優位、小型株劣位が鮮明となりましたが、グロース株優位・バリュー株劣位という点では年始からの流れの反転的な展開となりました。また、値高株、高ROE（自己資本利益率）、低配当利回りの優良株が優位になる一方で、低PER（株価収益率）、高信用リスクも優位になるなど、複雑な要因が絡み合う形になりました。

その中で、当ファンドでは、月初の段階で、①割安感の強まった「グロース株」と「中小型株」、②年始からの下落はきつかったが今後の最大のリスクファクターであるインフレ局面において底力を発揮できる可能性が強いと考えられる「国際優良株」、③原材料コストの上昇・物流コスト上昇・サプライチェーン混乱の影響が限定的で、製造業よりもインフレの影響を受けにくいと考えられる「非製造業（中小型株の多くが属する）」、の三領域を、ロングサイドの重要な投資対象として捉えました。その上で、「強くて」「優良な」会社を「安く」拾うというシンプルな投資行動がリターンを極大化に寄与すると考え、それを実践しました。一方で、ショートサイドにおいては、インフレの影響を強く受け、コスト削減や価格転嫁での収益力回復が難しいと思われる銘柄を重視しました。

その結果としては、全体感として良好なリターンを計上できました。欲を言えば、ロングサイドにおいて、もう少し積極的に中小型株のリスクテイクを行っても良かったかもしないと思っております。



あなたに最適な
資産運用を。

ファイブスター
投信投資顧問

※ 後述の「当資料のご留意点」を必ずご参照下さい。

AB311138-MR220331C

4/10ページ

日本株ロング・ショート・ストラテジー・ファンド 愛称:「とこしえ」

追加型投信/国内/株式/特殊型(ロング・ショート型)

作成基準日:2022年3月31日

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファイブスター投信投資顧問株式会社

マンスリーコメント

今後の運用方針

今後の株式市場の2大リスクは、引き続き、「世界的インフレ」と「ロシアによるウクライナ侵略戦争」に尽きると考えています。もともとは、コロナ後の労働力不足と部材不足に起因する供給不足、それに対する異次元金融緩和と急激な需要の戻り、過度の脱炭素政策により「世界的インフレ」の兆候は高まってきましたが、「侵略戦争」がそのインフレを「加速」しつつあるという意味で、両要因が複雑に絡み合う展開になってきました。仮に停戦合意がなされても、世界の二極化が進むことからインフレ要因が根強く今後の世界を支配することから、インフレが「長期化」するリスクが高まっております。ここから、賃金上昇が恒常化して、各国の長期インフレ期待が高まってしまうと、多くの人々が恐れる「スタグフレーション」が顕在化します。

従来より、インフレはデフレよりも遥かに対処が難しく、多くの企業は収益性の維持すら難しくなると考えています。その中で、インフレは長期化の様相を強めており、企業はこれまでのデフレマインドを完全にスイッチする必要に迫られています。日本でも、じわじわと物価の上昇が続く中、少子高齢化の流れが一層強まっていることから賃金の継続的上昇は必須です。今、「DX（デジタルトランスフォーメーション）」の必要性について、各企業によりお題目のように唱え始めていますが、DXの速やかな進展を通じた「生産性」の改善がなければ、資源に乏しい日本が、各国より厳しい経済停滞に陥るリスクは否定できません。

そのような中で4月後半から、日本では通期の決算発表が本格化します。今のような業績前提を設定しにくい状況下では、業績予想を示すことは従来と比べて格段に難しく、本通期決算では、各企業が保守的な業績予想を示したり、業績予想の提示を見送ったりする例が続出する展開が予想されます。その場合には、今期見通しの不透明性が高まり、全体として株価の上値を追いかけることが難しくなります。個別で見ても、原材料コストの上昇、物流コストの上昇、サプライチェーンの寸断のリスクが大きいセクターが避けられたり、同じセクター内でも経営力の劣る会社が忌避されたりする状況になるでしょう。限られた銘柄が勝者となり、その他圧倒的多数の銘柄が弱者に落ちぶれる展開さえ否定できないと考えます。

以上を勘案して、4月の日本株については、ドル円120円前後を前提に、日経平均株価で3月末水準の28,000円前後の水準を大きく上回することは難しく、26,000円から28,500円のレンジでの振れ幅の激しい展開を予想します。

実際の運用に関しては、上記の通り、決算発表を通じたサプライズが従来以上に多くなる可能性が高いことから、ロングサイドにおいて、決算発表前に、確信度の低い銘柄を外したり、そのポジション量を縮小したりして、リスクを有意に落とした形での運用を行います。一方で、原材料コストの上昇・物流コスト上昇・サプライチェーン混乱の影響を受けにくい非製造業の優良企業に対しては、銘柄を厳選した上で、サイズの大小を問わず、大胆な投資を行って参ります。逆に、ショートサイドにおいては、前月に引き続き、インフレの影響を強く受け、コスト削減や価格転嫁での収益力回復が難しいと思われる銘柄を重視して参ります。

総じて言えば、前月は「ミクロ積極、マクロ慎重」というスタンスで臨みましたが、当月は「ミクロ・マクロとも慎重」という運用を行って参ります。

なお、「インフレ」と「侵略戦争」という二大リスク要因の霧が晴れる兆候が見えてきたら、即座に積極運用に切り替える柔軟な運用を行って参ります。



あなたに最適な
資産運用を。

日本株ロング・ショート・ストラテジー・ファンド 愛称:「とこしえ」

追加型投信/国内/株式/特殊型(ロング・ショート型)

作成基準日:2022年3月31日

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファイブスター投信投資顧問株式会社

投資リスク等

基準価額の変動要因

信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて値動きのある有価証券などに実質的に投資しますので、当ファンドの基準価額は変動します。

したがって、受益者の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。また、投資信託は預貯金と異なります。

当ファンドおよび当ファンドが投資する投資信託証券の基準価額の変動要因の主なもの、以下の通りです

当ファンドの基準価額の変動要因の主なもの、以下の通りです。

有価証券の株価変動リスク

当ファンドは、実質的に国内の株式等を主要投資対象としますので、当ファンドの基準価額は、当該株式等の価格変動の影響を大きく受けます。株式等の価格は、国内外の政治・経済・社会情勢の変化、発行企業の業績・経営状況の変化等により変動します。その影響により株式等の価格が下落した場合、当ファンドの基準価額が値下がりする要因になります。

「ロング・ショート戦略」固有のリスク

当ファンドが投資する外国投資信託は、株式の売建て(ショート)を行いますので、売建て(ショート)した株式の価格が上昇した場合にも当ファンドの基準価額にマイナスの影響を及ぼし、場合によっては、売建て(ショート)の特性上、損失が想定以上になることもあります(また、株式を売建て(ショート)するにあたり、借入れコストがかかります。)。当ファンドは、株式市場全体の動向から影響を抑制する運用を行います。その影響がなくなるわけではありません。また、買建て(ロング)、売建て(ショート)する株式のリターン動向について見通しを誤れば基準価額が下落する要因となり、場合によっては大幅に下落する場合があります。

信用リスク

有価証券の発行体において、経営不振、その他の理由により債務不履行が発生した場合、またはそうした事態が予測される場合等には、当該発行体が発行する有価証券の価格は大きく下落し、基準価額が値下がりすることがあります。

流動性リスク

組入る有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場規模の縮小や市場動向によっては、組入る有価証券が当初期待される価格での取引もしくは機動的な売買ができないことがあり、当ファンドの基準価額に悪影響を及ぼすことがあります。

解約による資金流出に伴うリスク

一部解約金の支払資金を手当てするために、当ファンドが投資する投資信託証券において、組入れている有価証券等を大量に売却する場合があります。この場合、市場規模や市場動向によっては、有価証券等を当初期待された価格で売却できないことがあり、当ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

※(ご注意) 以上は、基準価額の主なる変動要因であり、変動要因はこれに限られるものではありません。

あなたに最適な
資産運用を。

日本株ロング・ショート・ストラテジー・ファンド 愛称:「とこしえ」

追加型投信/国内/株式/特殊型(ロング・ショート型)

作成基準日:2022年3月31日

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファイブスター投信投資顧問株式会社

ご留意点等

その他のご留意点

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ制度)の適用はありません。
- 当ファンドが投資する外国投資信託においては、投資銘柄の選定に関して、国内の投資顧問会社から助言を受けます。このため、当該投資顧問会社の業務または財産の状況の変化、助言担当者の交代、その他の理由により、運用に支障が出る場合があります。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です

分配方針

年4回(毎年1月、4月、7月および10月の各28日(休業日の場合は翌営業日))に決算を行い、収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。

- 分配対象額の範囲は、経費控除後の利子・配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。
- 分配金額は、委託会社が基準価額水準・市場動向等を勘案して決定します。ただし、分配を行わないこともあります。
- 収益分配に充てず信託財産内に留保した利益については、特に制限を設けず、運用の基本方針に基づき運用を行います。

※運用状況により分配金額は変動します。※将来の分配金の支払い及びその金額について保証するものではありません。

当資料のご留意点

- 本資料は、ファイブスター投信投資顧問株式会社で作成した販売用資料であり、法令に基づく開示書類ではありません。本資料に記載の過去の運用成績、運用内容は将来の運用成果、運用内容を保証あるいは示唆するものではありません。本資料は、原則として表示桁数未満を四捨五入しているため合計の数値とは必ずしも一致しません。本資料をご覧くださいにあたっては、「投資リスク」、「その他の留意点」、及び「分配方針」を必ずご確認ください。お申込の際は、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」を必ずご確認のうえ、お客様ご自身でご判断ください。



日本株ロング・ショート・ストラテジー・ファンド 愛称:「とこしえ」

追加型投信/国内/株式/特殊型(ロング・ショート型)

作成基準日:2022年3月31日

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファイブスター投信投資顧問株式会社

お申込メモ

購入単位	1口または1円単位として販売会社が定める単位
購入価額	購入申込日の翌営業日の基準価額(1万口あたりで表示しています。)
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。
換金単位	1口単位として販売会社が定める単位
換金価額	換金(解約)受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を差引いた価額
換金代金	原則として換金(解約)受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
申込締切時間	午後3時までで、販売会社が受け付けた分を当日のお申込み分とします。
購入・換金 申込不可日	以下の日においては、購入および換金(解約)のお申込みができません。 ・ロンドンもしくはダブリンの銀行休業日
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、1億口または1億円以上の換金(解約)請求は、正午までをお願いします。
購入・換金・申込受付の 中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金(解約)の受付を中止すること、および既に受付けた購入・換金(解約)申込みの受付を取消す場合があります。
信託期間	原則として2023年10月30日までです。(2013年8月1日設定)
繰上償還	投資する投資信託証券が存続しないこととなる場合は、信託を終了させます。また、次のいずれかの場合には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了させること(繰上償還)ができます。 ・受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合 ・やむを得ない事情が発生したとき ・繰上償還することが受益者のために有利であると認めるとき
決算日	毎年1月、4月、7月および10月の各28日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年4回の決算時に、収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。
信託金の限度額	信託金の限度額は1,000億円です。
公告	原則として、電子公告の方法により行い、委託会社のホームページ(https://www.fivestar-am.co.jp/)に掲載します。
運用報告書	毎年1月と7月の決算時および償還時に交付運用報告書を作成し、知れている受益者に交付します。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。

あなたに最適な
資産運用を。ファイブスター
投信投資顧問

※ 詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご確認下さい。

AB311138-MR220331C

8/10ページ

日本株ロング・ショート・ストラテジー・ファンド 愛称:「とこしえ」

追加型投信/国内/株式/特殊型(ロング・ショート型)

作成基準日:2022年3月31日

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファイブスター投信投資顧問株式会社

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入申込日の翌営業日の基準価額に申込口数を乗じて得た額に、上限を 3.30%(税抜 3.0%) として、販売会社が定める料率を乗じて得た額とします。 ※ 購入時手数料は、商品および関連する投資環境の説明や情報提供など、ならびに購入に関する事務コストの対価です。
信託財産留保額	1万口につき換金(解約)受付日の翌営業日の基準価額に対して 0.30% の率を乗じて得た額を、ご換金(解約)時にご負担いただきます。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	<p>ファンドの日々の純資産総額に年 1.155%(税抜 年 1.05%)の率を乗じて得た額とします。運用管理費用は、毎計算期間末日または信託終了のときに、信託財産から支払われます。</p> <table border="1"> <tr> <td>当ファンドの運用管理費用 (信託報酬)(年率)</td> <td>年 1.155% (税抜 年 1.05%)</td> <td>運用管理費用=日々の純資産総額×信託報酬率</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">配分</td> <td>委託会社</td> <td>税抜 年 0.31%</td> <td>委託した資金の運用の対価</td> </tr> <tr> <td>販売会社</td> <td>税抜 年 0.70%</td> <td>運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価</td> </tr> <tr> <td>受託会社</td> <td>税抜 年 0.04%</td> <td>運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価</td> </tr> <tr> <td>投資対象とする投資信託証券</td> <td>年 1.4738%(税抜 年1.473%)程度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実質的な負担※</td> <td>年 2.629%(税抜 年2.523%)程度</td> <td></td> </tr> </table> <p>※ 当ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬等を加味して、投資者が実質的に負担する信託報酬について算出したものです。</p>			当ファンドの運用管理費用 (信託報酬)(年率)	年 1.155% (税抜 年 1.05%)	運用管理費用=日々の純資産総額×信託報酬率	配分	委託会社	税抜 年 0.31%	委託した資金の運用の対価	販売会社	税抜 年 0.70%	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価	受託会社	税抜 年 0.04%	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価	投資対象とする投資信託証券	年 1.4738%(税抜 年1.473%)程度		実質的な負担※	年 2.629%(税抜 年2.523%)程度	
当ファンドの運用管理費用 (信託報酬)(年率)	年 1.155% (税抜 年 1.05%)	運用管理費用=日々の純資産総額×信託報酬率																				
配分	委託会社	税抜 年 0.31%	委託した資金の運用の対価																			
	販売会社	税抜 年 0.70%	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価																			
	受託会社	税抜 年 0.04%	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価																			
投資対象とする投資信託証券	年 1.4738%(税抜 年1.473%)程度																					
実質的な負担※	年 2.629%(税抜 年2.523%)程度																					
実績報酬	<ul style="list-style-type: none"> 運用の実績に応じて実績報酬が発生します。 実績報酬は、毎決算時における過去最高値の基準価額をハイウォーターマークとし、基準価額がハイウォーターマークを上回った場合、その超過額に対して5.5%(税抜5%)を乗じて算出します。 当該実績報酬は、日次で計算され、日々の基準価額に反映されます。 当該実績報酬は、毎決算時および信託終了のときに信託財産中より支払われます。 <p>※ 当該実績報酬は、委託した資金の運用の対価です</p>																					
その他の費用・手数料	<p>以下の費用・手数料等は、信託財産中から支払われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 組入価証券取引に伴う手数料(売買委託手数料、保管手数料等) 信託財産に関する租税 監査費用 計理およびこれに付随する業務に係る費用 目論見書等の作成および交付に係る費用 運用報告書の作成および交付に係る費用 公告に係る費用 法律顧問および税務顧問に係る報酬および費用等 <p>なお、投資対象の投資信託証券においても同様の費用がかかり、当該投資信託証券の信託財産から支払われます。また、株式を売建て(ショート)するための借入れコストおよび毎月の基準価額の高値更新分に対して15%の実績報酬がかかります。</p> <p>※監査費用は、監査法人などに支払うファンドの監査に係る費用です。 ※これらの費用等は、運用の状況等により変動するため、料率、上限等を予め表示することはできません。</p>																					



あなたに最適な
資産運用を。

日本株ロング・ショート・ストラテジー・ファンド 愛称:「とこしえ」

追加型投信/国内/株式/特殊型(ロング・ショート型)

作成基準日:2022年3月31日

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファイブスター投信投資顧問株式会社

ファンドの関係法人

委託会社: 信託財産の運用指図等を行います。

委託会社の照会先

ファイブスター投信投資顧問株式会社

金融商品取引業者: 関東財務局長(金商)第2266号

一般社団法人投資信託協会会員 一般社団法人日本投資顧問業協会会員

ホームページアドレス

<https://www.fivestar-am.co.jp/>

お客様デスク

03-3553-8711

(受付時間:委託会社の営業日の午前9時~午後5時まで)

受託会社: 信託財産の保管・管理業務等を行います。

三井住友信託銀行株式会社

販売会社: 受益権の募集・販売の取扱い、換金(解約)事務、換金代金・収益分配金・償還金の支払い等を行います。

販売会社の名称等

お取り扱い 販売会社一覧		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
今村証券株式会社	金融商品 取引業者	北陸財務局長 (金商)第3号	○			
アーク証券株式会社	金融商品 取引業者	関東財務局長 (金商)第1号	○			
あかつき証券株式会社	金融商品 取引業者	関東財務局長 (金商)第67号	○	○	○	
松井証券株式会社	金融商品 取引業者	関東財務局長 (金商)第164号	○		○	

※加入している金融商品取引業協会を○で表示しています。

※上記の表は、ファイブスター投信投資顧問株式会社が基準日時点で知りうる信頼性が高いと判断した情報等から細心の注意を払い作成したのですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。

あなたに最適な
資産運用を。ファイブスター
投信投資顧問

※ 詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご確認下さい。

AB311138-MR220331C

10/10ページ